



教育開発推進機構 NEWSLETTER

教育開発ニュース

VOL. 17
NEWSLETTER

KOKUGAKUIN University 平成30年(2018)2月28日

目次

- めざせ、先生！ —國學院大學の教職支援—..... p.2
- フィールドに学びあり..... p.5
—ボランティアステーションワークショップ 活動報告—
- 東北大学専門教育指導力育成プログラム「大学中国語教授法強化講座2017」参加の記 p.7
- データは語る(2) p.8
—学内TOEIC® IPスコア・データから考える大学生に必要な英語力！—
- シリーズ「大学授業最前線—教員の努力！学生のまなざし！(17)—」 p.11
藤本頼生（神道文化学部准教授）
- 名著探訪 —高等教育、この1冊（第9回）— p.14
- 教育開発推進機構彙報..... p.15
- そったくどうじ 啐啄同時 —編集後記— p.16

もっと日本を。もっと世界へ。



國學院大學

めざせ、先生！

—國學院大学の教職支援—

國學院大学では、平成24年度から全学体制のもと、教職センター委員会が発足し、あわせて渋谷キャンパス3号館3階に教職センターが設置されました。これまでにあった教務課教職課程事務担当（教員免許状・介護等体験・教育実習の支援）と、キャリアサポート課教員就職支援担当が一元化されることで、新たに「教員免許状取得から教員になるまで」をトータルでサポートする体制を整えています。

今回は、教員免許状取得を希望する方、教員となることを本気でめざしている方に、渋谷キャンパスにおける支援体制の一部を、紹介します。

1 教職センターの機能と役割

(1) 教員免許状取得に関する支援

教職課程を履修する際の相談対応から、介護等体験、教育実習、教員免許状一括申請に至るまで、ガイダンスや説明会の実施、レポートや申請書の受付等の事務手続きなど、教職課程に関するサポートをしています。



▲教職課程の履修相談や各種事務手続きの窓口

(2) 教員就職に関する支援

本気で教員をめざす学生のために、教員に求められる資質能力の養成を目的とした講習会、ゼミナール、模試等を企画し、教員採用試験対策を実施しています。教員求人紹介など、在学生（大学院生を含む）や継続して教員を目指している卒業生までをサポートしています。

長年学校現場で活躍し、管理職を経験された本学卒業生（院友）の先生方から、教員就職や教員採用試験に関



▲教職アドバイザーによる面談・指導

するアドバイスを受けることができます。

また、随時、担当職員が相談に応じますので、気軽に窓口を訪れてください。

(3) スクールボランティア求人案内・派遣等の支援

学校現場へ赴き、児童・生徒や教員の補助を体験することはとても大切です。教職センターでは毎年、渋谷区教育委員会を招きスクールボランティア説明会を実施し、多くの学生を紹介し、派遣のサポートをしています。

また、その他に、人物証明書の発行、教員免許状更新講習の実施も行っています。

2 教員就職支援（採用試験対策）

学年ごとに、教員就職ガイダンス、教職総合・専門教科ゼミナール、各種講習会、模擬試験等を実施しています（次ページ「4年間の流れ」参照）。

各企画の実施時期、内容については、教員採用試験の動向等を考慮し、今後変更することがあります。K-SMAPY等で配信される情報を確認のうえ、それぞれの企画に参加してください。

教員採用試験に合格するためには、講習会・ゼミナール等を積極的に活用して計画的に学習することが、効果的です。

3 教職に関わる情報の提供

教職センターが主催する教職課程に関するガイダンス・説明会（介護等体験・教育実習・教員免許状関係）と、教員就職に関するガイダンス・講習会等については、すべてK-SMAPYを経由して、PCと携帯メールの両方に情報を配信します。また、補完措置として、教職センター掲示板と大学ホームページでの告知も行っています。私

4年間の流れ (平成29年度の例)

	1年生	2年生	3年生	4年生
教職課程 (免許取得までの流れ)	4月 教職課程ガイダンス 4月 「教職論」登録 6月 介護等体験ガイダンス(12月) 9月 「ボランティアと社会参加」登録 後期 第一次教職課程費納入	4月 「各教科教育法Ⅰ」登録 4月 実習校依頼交渉ガイダンス 6月~3月 介護等体験参加 7月 「教育実習Ⅱ」参加有資格者発表 実習依頼申請書交付 (教育実習Ⅱ用) 2月 書類作成会 (教育実習Ⅱ用)	前期 「教科教育法Ⅰ(事前指導)」登録 4月 第二次教職課程費納入 (教育実習Ⅲ用) 6月 実習校依頼交渉ガイダンス (教育実習Ⅲ用) 6月 「教育実習Ⅱ」(中学校参観実習) 7月 「教育実習Ⅲ」参加有資格者発表 実習依頼申請書交付 (教育実習Ⅲ用) 2月 教育実習校別面接・書類作成会 (教育実習Ⅱ・Ⅲ参加者)	4月 「教職実践演習」登録 6月 「教育実習ⅠB(事後指導)」登録 7月 教育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ (中学校参観及び教壇実習 高等学校教育実習) 12月 教員免許状一括申請説明会② 3月 卒業式 教員免許状授与
教員採用試験対策支援・受験対策の流れ	4月 スクールボランティア説明会(学年不問)、小・中学校・高校でボランティア開始	教員就職ガイダンス 前期:4月、後期:9月	教員採用試験対策 年間3回(11月、2月、次年度5月) 教員就職ガイダンス 全7回(4月、6月、7月、9月、11月、1月、次年度4月) 4月 私立学校採用説明会 教職総合ゼミナール(5月~12月) 水曜5・6時限開催 教育小論文講習会(前期) 4月~6月 6時限開講 専門教科ゼミナール(10月~12月) 土曜3・4時限開催 教育小論文講習会(後期) 10月~12月 6時限開講 8月~9月(16日間) 夏期集中講習会 10月~11月 継続指導(教育小論文) 11月 合格者報告・相談会 12月 志望別学習相談会 12月(3日間) 教職教養 冬期集中講習会 2月(11日間) 春期集中講習会 3月(2泊3日) 教職合宿 3月~4月 春期企画継続指導(教育小論文) 12月 首都圏教育委員会説明会	公立学校 教員採用試験※ 7月:一次試験 8月~9月:二次試験 4月 教員就職ガイダンス(最終) 4月~GW(5日間) 直前集中講習会 5月 継続指導(教育小論文) 5月~8月 一次対策指導会 二次対策指導会 4月~5月 首都圏公立学校採用試験説明会 11月~2月 合格者支援企画(合格者・報告相談会 準備、高等学校授業見学、院友若手教員交流会、3年生講習会 [再現演習]準備など) 11月 教員求人登録説明会 11月~12月 教員求人登録面接 1月~ 教員求人紹介
教員就業のポイント	・教職論、ボランティアと社会参加を履修(必修)し、教職の意義と基礎理論を学ぶ。 ・所属学科の専門教育科目の単位を好成績で取得できるよう努める。(GPAを意識する) ・免許取得予定の専門教科力を高める。(大学受験の復習)	・教科の指導法について基礎を学ぶ。 ・ガイダンスに参加し、教員を本格的にめざすか意志を固める。 ・スクールボランティア等に参加し、学校現場、生徒等、理解を深める。 ・受験地の試験内容等情報を収集する。 ・筆記試験、論文試験対策に取り掛かる。	・ガイダンスに参加し、教員採用試験を理解し、情報収集する。 ・教職センター企画(講習会等)に参加し、本格化させる。 ・11月、2月模試を受け、学習達成度をはかり、弱点を克服する。 ・教科の専門性を高め、実践力を養う。 ・卒業論文指導、ゼミに参加し、教員としての専門性を磨く。 ・12月から始まる各自治体教育委員会による説明会に参加する。	・教育実習に向け、しっかりと準備をする。 ・教員採用試験に向け、これまでの対策をまとめる。 ・卒業後の進路について、決定までしっかりとサポートを受ける。

教員採用試験対策の内容例

名称	内容
スクールボランティア説明会	教育現場を知る良い機会であるスクールボランティアについて学内で説明会を行います。
私立学校採用説明会(兼 東京都私学適性検査学内説明会)	私立学校における教員採用に関する説明と東京都私学適性検査について説明します。
教員採用模擬試験	実戦を想定した模擬試験を学内で実施します。受験希望地の判定結果から、学習の成果を測定することができます。
教員採用試験合格者報告・相談会	採用試験に合格した4年生が、学習方法や試験での質疑応答の状況等を報告します。教職希望者は必見です。
教育小論文講習会(前期・後期)	本気で教職をめざす学生のために、教育課題への基礎的理解と教員採用試験に出題される論文試験を基礎から学びます。
教員就職ガイダンス	試験の傾向と対策を解説します。学内の教職支援企画の募集もありますので、教職希望者は必ず参加してください。
教職総合ゼミナール	本気で教職をめざす学生を対象にした講習会です。合格力と、教師力を身につけるための重要事項を学びます。
教職夏期集中講習会	教員採用試験で求められる全て課題の基礎編として、面接の基礎、教職教養、専門教養、論文を学ぶ講習会です。
専門教科ゼミナール	専門教科別に、重要なポイントを学び基礎力アップを図ります。
志望別学習相談会	最新の採用情報や出題傾向を、志望別別に解説します。
教職教養冬期集中講習会	夏期集中講習会の教職教養解説・学習対策の発展版です。
教職春期集中講習会	夏期集中講習会の応用編として、教職教養、専門教養、論文を中心に教員採用試験の対策を学ぶ講習会です。

名称	内容
教職合宿	小論文や面接、模擬授業等の演習指導により、実力と度胸を養います。
教員採用試験直前集中講習会	教員採用試験本番に備え、受験地を意識した重要ポイントの再確認と、面接・論文指導を行います。
教員採用試験一次試験対策(論作文・面接等)指導会	一次試験で、論文・集団面接・集団討論等を出题する自治体を受験する学生のための指導会です。
教員採用試験二次試験対策指導会	二次試験に備え、面接・討論・模擬授業・場面指導等の、個別アドバイスを徹底的に行います。
教員求人登録説明会	公立・私立の教員求人解説と教職センターからの紹介・斡旋について説明・登録方法について解説します。

教員採用試験受験者への経済的支援について

教職を志す学生が、教員採用試験に向けた準備のため、本学が指定する講座等に参加する費用の支援を目的とした「教員採用候補者選考試験支援奨学金制度」があります(毎年4月募集)。学部3・4年生を対象とし、卒業後に教職に就く意思が明確かつ堅固であり、前年度までの累積GPAの学科内順位が、上位30%以内であることが、応募資格です。ただし、本学が指定する講座等をすべて受講すること、4年次に教員採用試験を受験することが義務となります。選考の結果、採用された方には、本学指定の講座等の受講料及び教材費相当額が支給されます。

立学校からの教員求人や公立学校の臨時採用に関するお知らせについても、同様に告知しています。



▲教職課程・教員就職に関わる情報をチェック

教員採用試験に関する情報は、教員就職支援室で提供しています。全国の都道府県等自治体から教員採用試験募集要項を取り寄せています。



▲スクールボランティアや教師塾の募集案内を入手

また、学習指導要領、教科書、過去問題、参考書、『教職課程』や『教員養成セミナー』等の教員採用試験に関する雑誌、教育関係新聞等の閲覧ができます。貸し出しは行っていませんが、一時帯出はできますので、希望する方は、窓口申し出てください。

4 教員採用試験に合格し夢をかなえるために

平成29年4月採用の本学の教員就職者の総数は、382名でした。このうち新卒者（125期卒業生：全学部）は、254名でした（公立学校正規採用・臨時任用等、私立学校就職者の合計）。毎年、多くの卒業生が、「國學院大學で教員免許状を取得し、教員になる」という夢をかなえています。



▲過去問題の分析が教員採用試験攻略の第一歩

教員になるためには、教育や学校について学び、教員にふさわしい資質や能力を身につけていく必要があります。教員をめざす皆さんは、1・2年次から職業観を磨き、様々な職業があるなかで、「なぜ教員という職業を選択するのか」を考え、意思を固めることが重要です。また、自分自身や教員の仕事について理解を深め、「自分はどのような教員になりたいのか」「教員に必要な資質や能力とはなにか」を考えて行動することも大切です。

教職の魅力とやりがいを学びたい方は、「スクールボランティア」への参加等を通じて、ぜひ、実際の教員の仕事に触れてみてください。

教員をめざすうえでの相談や質問がある場合は、教職センターにご相談ください。

担当：教職センター

（事務取扱時間）

月～金曜日 10時～18時(12:50～13:50を除く)

土曜日 9時～17時(12:50～13:50を除く)

※長期休暇期間は、変更される場合があります。

※閉室日：日曜日・祝日、大学休業日。

（場所）

渋谷キャンパス3号館3階

教育開発推進機構事務課(3311教室)

教員就職支援室(3310教室)

※平成30年4月から、百周年記念館1階に移動（予定）

注：たまプラーザキャンパスの教職支援については、たまプラーザ事務課で対応しています。

フィールドに学びあり

—ボランティアステーションワークショップ 活動報告—

フィールドに学びあり

「きょうかしんせん供花神饌」、「新潟コメ作り」、この二つのワークショップは、本学特別招聘教授の彬子女王殿下を総裁に戴く一般社団法人心遊舎との共催で、平成28年度より始まりました。このワークショップは、学生に日頃はなかなか触れることのできない日本の伝統文化を「体験」してもらうために開かれたものです。この2年間で100名を超える学生がワークショップに参加し、たくさんの経験をしました。今回は、学生ボランティアスタッフとしてワークショップのサポートをしてくれたとみざわはるひさ富澤明久君(大学院文学研究科神道学・宗教学専攻)に、ワークショップの概要と、携わって見た感想を述べてもらいます。

ワークショップの趣旨について

学生ボランティアスタッフは、ボランティアステーションが運営する企画に学生として加わり、学生ならではの提案をしたり、企画や参加者のサポートをしたりしています。今回は、「供花神饌ワークショップ」と「新潟コメ作りワークショップ」について紹介します。

「供花神饌ワークショップ」は、神様に奉納するものを自分たちの手で作るという体験を通して、日本の伝統文化に触れることを目的としています。「新潟コメ作りワークショップ」は、現在の日本に様々な食がある中で、日本人が特に歴史を通じて大切にしてきた「お米」について考えてみようという試みです。自分の手で稲を植え、草取り等の手入れをし、収穫し、それを奉納するという過程を体験してもらいます。このワークショップは、新潟の農家の方々のご協力を得て開催されました。以下、それぞれのワークショップについて説明をしてゆきます。

供花神饌ワークショップ

神饌とは、お祭りごとに神社の神様へ捧げるお供え物のことです。その内容は、米やお酒、海の幸や山の幸など様々ですが、一部の神社では歴史的に特別な由来のある神饌を奉納しています。石清水八幡宮(京都府八幡市)で毎年9月15日に行われる「石清水祭」では、和紙で作ったお花をお供えします。この「供花」は四季の花12種類で構成されますが、平成28年度は、8月5日に冬の花である南天と、春の花である梅の制作を体験しました。

材料は、米から作られた糊や紅花で染めた和紙など、日常ではなかなか触れる機会のないものばかりです。殿下の「うまく作ろうと思うよりも、真心を込めて作る事が大切です。」とお言葉を胸に、また、本学博物館所蔵の作品をお手本に、参加者達は細かい作業に苦戦しながらも、京都の染色工房「そのの染司よしおか」の皆様の手ほどきを受けながら、供花を作りあげることができました。

ワークショップ終了後、参加者からは「貴重な経験だった」、「来年もぜひ体験したい」との声が多く挙がりました。次回は平成30年度に開催する予定ですので、興味のある学生の方はぜひ参加してください。



▲奉納された梅



▲作業の様子



▲奉納された南天

新潟コメ作りワークショップ

このワークショップは、春から秋にかけて、新潟県にある水田をお借りして行われた大規模なワークショップです。実施に先立ち、学修支援センター長の東海林孝一先生、教育開発推進機構教員で本ワークショップ担当の鈴木崇義先生と一緒に新潟へ赴き、ご協力いただく農家の方々と打ち合わせをしました。このワークショップが成功したのは、このように直接皆さんと相談しながら進めることができたからこそだと思います。

続けて一連の流れについて紹介します。

- ・田植え(5～6月頃)……田んぼの中に素足で入り、苗を一つ一つ丁寧に植えていきます。
- ・草取り(6～8月頃)……稲の生育を妨げる雑草を定期的に刈り取ります。単純ではありますが最も重要で大変な作業です。
- ・稲刈り(10月頃)……成長した稲穂を鎌で刈り、竹や木で作った稲架はきに稲束を掛けて乾かします。
- ・奉納(11月頃)……収穫したお米を新潟県内の神社に奉納し、ワークショップの無事の終了と豊かな実りについて、神様に感謝を捧げます。その後、日を改めて収穫したお米を大学内でいただく場を設け、1年間のワークショップは締めくくりとなります。

田植えと稲刈りは、作業日の前日に大学から貸し切りバスで新潟に行き、地元の研修センターで農家の方々から作業に関するレクチャーを受けました。その後に開かれた交流会では、地元の皆さんが我々学生を温かく迎えてくださり、翌日の作業に向けて英気を養うことができました。

草取りは、主に大学の夏休みを利用し、学生がそれぞれ高速バス等を利用して新潟に行き作業をしました。また、農家の方のご厚意で、草取りはもちろん、他の畑の収穫や地元のイベントのお手伝いもさせていただき、こちらも貴重な機会となりました。

長期にわたるワークショップを通して、参加者は何度も新潟



▲田植えを終えた水田の様子

に足を運び、学生同士の絆が深まるとともに、農家の方とも親しくさせていただくことができ、大変楽しい経験ができたと思います。

学生たちからも、「食物を育てることとそれをいただく事の有り難さを感じた」、「農作業を通して先人たちの苦勞を知った」、「自然と共生して生活することの素晴らしさを学んだ」といった意見が多く、有意義なワークショップになったと思います。

平成29年度は、2回目の開催ということで、前回の反省を踏まえて事前勉強会や事後研修会を行いました。また、農家の方々も様々なアイデアを出してくださり、自分が苗を植えた場所がわかるよう杭を立てたり、「やまぎもん」という地域に伝わるかむりの着物をお借りして作業をしたりするなど、自分の手で苗を育てているという手応えと、地域の伝統文化に触れているという実感を、より深く味わうことができました。

平成30年度にも、3回目となるワークショップが開催される予定です。こちらも、ぜひたくさん学生の参加して欲しいと思います。

2年間のワークショップを振り返ってみると、多くの方のお力添えをいただいたことを今更ながら感じます。このワークショップに関わってこられた方々に、あらためて感謝を述べます。



▲稲を傷めないよう、丁寧に草を取ります



▲地元の方に稲束作りを教わりました

東北大学 専門教育指導力育成プログラム

「大学中国語教授法強化講座2017」参加の記

佐川 繭子（教育開発推進機構准教授）

去る2017年9月初旬、大学中国語教授法教化講座に参加した。この講座は、東北大学高度教養教育・学生支援機構が教育開発共同利用拠点「知識基盤社会を担う専門教育指導力育成拠点—大学教員のキャリア成長を支える日本版SoTLの開発」事業の一環として実施しているもので、大学中国語教授法教化講座は今回で三回目（三年目）とのことである。東京での事前研修（一日）と北京語言大学での集中コース（五日間）とから成り、今年には全国から15名が参加した。大変有意義な講座であったので、簡単ではあるがご紹介したい。

事前研修では、参加者全員が担当授業の紹介・課題・研修に求めるものについて発表を行った。参加者の授業に於ける様々な工夫を理解することができ、この段階ですでに多くの示唆を得た。講座の参加者は意欲のある方ばかりなので、自然と自分の姿勢を反省する機会になる。

北京語言大学は多くの留学生が中国語を学ぶ場であると同時に、中国語教員を育成する教育機関でもある。中国語教授法講座の場として最もふさわしいと言えよう。集中コースでは、第二言語としての中国語の教授理論と実践、教材設計理論と実践、スピーキングの教授理論と実践、教育評価理論と実践、教育技術理論と実践、習得理論と実践等を受講した。日本人学習者に対する教育に特化した講義は一つであった。やや専門性の高い（上級科目対応）内容もあったが、科目名に「実践」とある通り、総じて具体的であった。中国語の教授法は、英語のそれを参照しつつ現地化を図っているものと言えるが、実践の上でもきちんと評価と検証が行われているようである。国を挙げて外国語としての中国語学習を推進していることもあり（海外に多くの教育機関を設立し、教員を派遣している）、教授法研究も進展している。中国語の国家認定試験であるHSKも、語彙や学習内容等よく考えられていることが、公刊されている資料からはわかる。

北京語言大学の留学生用中国語の授業は、若手教員に対してベテラン教員による見学や評価がなされており、



具体的な授業運営方法も指導されるそうである。中国語の授業コンテストで評価された若手教員の授業の動画を見せていただいたが、非常によくできていた。よく作り込まれているのであるが、教員が「役者」となり、指導教員の演出（指導）を受けたということであった。筆者は中国の他の大学の中国語授業を参観したことがあるが、初級クラスはある程度の型があるらしく、教員がテンポよく説明し、発音し、発音させ、発言させ、そしてよく褒める、という共通点がある。

大学における外国語教育は、どの言語もそうであるが、言語学や言語教育学の専門家だけが担当するのではなく、当該言語による文献や当該言語を用いる国・地域に関わる他分野を専攻する者も担当することがある。筆者も後者である。筆者は中国語の授業を運営するにあたり、その都度必要な事項を学んだに過ぎず、今まで中国語教育あるいは教授法について教育機関で学んだことはない。授業運営の具体的方法についても同僚や知人と意見交換をする程度なので、知らずにいる事柄も多い。勿論、熱意ある教員は自身の専攻に関わらず外国語教授法について研究し、実践しているのであるが、そうではない教員もいることは関係者ならご存じであろう。FD研修等についてみても、外国語学部がない大学では、学内で（英語以外の）外国語教授法の研修を行おうにも種々の制約がある。東北大学のこの講座は、そういった現場を念頭に、第二言語教育に関する専門性を強化しようとする試みであり、多くの教員の参加が望まれる。

データは語る

～学内 TOEIC® IP スコア・データから考える大学生に必要な英語力！

松岡 弥生子（教育開発推進機構准教授）

TOEIC®は、英語を聞いたり読んだりする能力を測定するために、日本社会で広く活用されているテストです。TOEIC®と聞けば、一度も受験した事のない学生でも「ああ、就活のエントリーシートにスコアを記入するあのテストか」という程度の認識はあるのではないのでしょうか。このテストは今や、卒業後に一般企業などへの就職を考えている日本の大学生にとっては避けて通れぬものになっていると言っても過言ではありません。TOEIC®配信会社によると、現在、日本では約3,400の企業・団体・学校がTOEIC®を採用し、殊に国内上場企業の約7割が採用時にTOEIC®スコアを参考にしており、入社後も昇進や移動など企業内の様々な場面でTOEIC®が利用されている現状があるからです。企業は、全く知らない大勢の学生の中から、採用試験によって優秀な新入社員を選考しなければなりません。そんな時、国内で最も多くの学生が受験しているTOEIC®は、その学生の全体の中でのおよその英語力を把握する上で、大変便利な指標なのです。大学側も、この現状に鑑み、TOEIC®の受験とスコアアップ学習を様々な方法で推進しており、多くの学生が大学卒業時までTOEIC®を受験しています。今回第二回目となる「データは語る」では、國學院大學ランゲージ・ラーニング・センター（LLC）で実施したTOEIC® IP（団体受験プロ

グラム）の最近のスコア・データ等を参考にしつつ、大学生の“英語力”について皆さんと一緒に考えてみたいと思います。その前にまず、TOEIC®について確認しておきましょう。

TOEIC®と英語力検定試験

TOEIC®とは、Test of English for International Communicationの省略形で、一般にTOEIC®という場合にはTOEIC® LR（Listening & Reading）のことを指します。TOEIC® LRは、リスニングとリーディングの2技能を測定する問題で構成され、この2技能構成という点において、更にスピーキングとライティングを加えた4技能構成であるTOEFL iBTやIELTSと大きな相違があります。TOEIC®は英語を聞いたり読んだりして理解する受動的な試験のため、留学経験などの無い人でも比較的取り組み易い検定試験であり、早めに準備を開始すれば将来の就職時に役立つスコアも期待できると言えます。またTOEIC® SW（スピーキング&ライティング）と組み合わせることで受動的のみならず、能動的な英語力の測定が可能となります。では、他にはどんな英語力検定試験があるのでしょうか。表1は、国内で受験可能な英語資格検定試験の中から主なものを選んで比較したもので

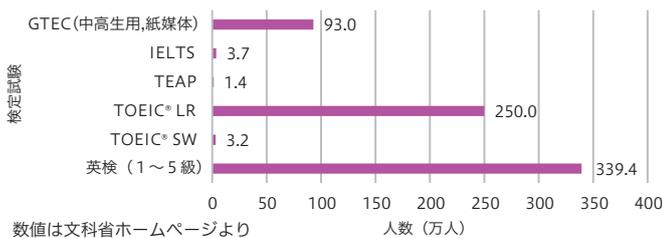
表1. 国内で受験可能な英語資格・検定試験の比較

	技能				所要時間 (分)	主な出題内容、特徴 など	スコアの主な利用	機関外 スコア 利用	テスト媒体	団体 受験	スコア範囲	受験料（参考）
	L	R	S	W								
TOEFL iBT	○	○	○	○	240~270	・大学生生活 ・学問分野	・海外大学・大学院への正規留学	○	PC,オンライン	×	0-120	US\$235-270
TOEFL ITP	○	○	○	○	110	・大学生生活 ・学問分野	・クラス分け、iBT準備、留学	×	紙	○	310-677	¥3000~4,000
IELTS Academic	○	○	○	○	165	・大学生生活 ・学問分野 ・日常生活	・海外大学・大学院への正規留学	○	紙、筆記式、面接(S)	×	1.0-9.0 (Band, 0.5 刻み)	¥25,380
英検	○	○	○	○	級による	・日常生活	・入試、就職、留学	○	紙、 面接(S)	○	級別の合否	¥2,500-8,400
TOEIC® LR	○	○	○	○	120	・ビジネス ・日常生活	・就職、進学、院試、留学	○	紙、マークシート	○	10-990	¥5,725
TOEIC® SW	○	○	○	○	60	・ビジネス ・日常生活	・就職、昇進、留学 (S,W別可)	○	PC（配信会社提供）	○	0-400	¥6,804(S)~10,260
TOEIC® Bridge	○	○	○	○	60	・日常生活	・中高進級、組分け、進学	○	紙	○	20-180	¥4,320
CASEC	○	○	○	○	40-50	・日常生活	・入試、クラス分け、実力チェック	○	PC,オンライン	○	0-1,000	¥3,600
TEAP	○	○	○	○	200	・大学生生活 ・アカデミック知識	・大学入試	○	紙、マークシート、面接(S)	×	80-400 CEFRA 2-B2,	¥15,000
GTEC 4技能版 中高生用	○	○	○	○	紙95-115	・日常生活、社会 (3技能可)	・大学入試 ・進級、組分け	○	紙+タブレット(S)	○	~840 ~1,080 ~1,280	紙：¥5,040
GTEC CBT 中高生用	○	○	○	○	175	・大学生生活、 アカデミック知識	・大学入試	○	PC,オンライン	×	~1400	¥9,720
GTEC 4技能版 大学、社会人用	○	○	○	○	80	・日常生活 ・社会	・就職 ・大学、企業内研修	○	PC,オンライン	○	0~1,000	¥12,960

L: listening; R: reading; S: speaking; W: writing

*各テスト配信会社、文科省ホームページの情報に基づく。面接試験の待ち時間は所要時間に含まない。受験料は参考値であり、予告のない変更・諸費用の可算・割引等があるため、受験時には確認されたい。

図1. 平成28年における主な英語検定試験の国内受験者数



す。出題分野、時間、試験媒体、費用、団体受験できるか、など様々な要素があります。又、図1は、それらの幾つかのテストについて、日本国内における受験者数を表しています。これを見ると、実用英検とTOEIC® LRの受験者数が明らかに多いのが分かります。TOEIC® LRの受験者数250万人は大学生や社会人が中心となっていますが、実用英検は1級から5級までの総計なので、就職活動や院試を想定して小中学生などを除外すると受験者数はずっと低くなります。紙媒体のGTECは、高校で機関内実施が盛んなためか3番目に多い93万人が受験しています。またコンピューターを使用するGTEC CBTは、最近話題になっている4技能大学入試に合わせて紙版GTECを基に開発したもので、日本版簡易TOEFLとも言われています。尚、TOEFL iBTやGTEC CBTの受験者数は公表されていません。

國學院大學のTOEIC® IPの受験者数の推移とスコアデータ

ではさっそく、國學院大學のTOEIC® IPの状況から見てみましょう。はじめに、本学のLLCによるTOEIC® LRのIPテストは自由参加であるため、毎回の参加者、学年、英語力などは一定でないということを念頭に置いておいてください。図2は、最近3年間、平成27年度第1回~29年度第5回までの17回分のTOEIC® IP受験者数の推移を表しています。その内10回は200人以上の参加者数があり、250人以上が参加した試験も2回あります。一方、参加人数が100~200人未満の回は4回あり、100人を下回った回も2回ありました。

学内IPの受験者数は、最初から使用できる教室数などを考慮して一定数に制限しているのですが、さらに期末試験、期間内試験、長期休暇、就職イベント、留学プログラムなど学内行事や、テスト実施日程などの影響により、増減しています。例えば受験者数の低かった28年度第6回(29年2月実施)の試験は、「減額受験」の支援プログラム(同年度の第1回又は第2回のテスト受験申込時に追加1,000円を納入することで年度末2月の第6回IPを受験できる)に対応しており、受験料払い込みから長い時間が経ってしまったため、受験を忘れてしまった人が多かった可能性があります。年

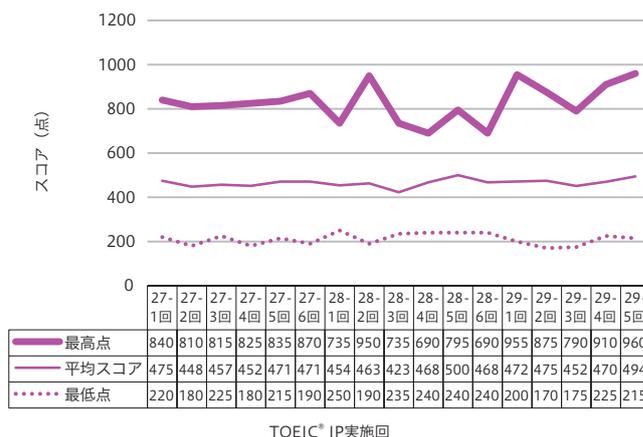
図2. 國學院大學における平成27年度第1回~29年度第5回までのTOEIC® IP受験者数の推移



度別の総受験者数で見ると、27年度が1,238人(6回の計)、28年度が929人(6回の計)、そして、まだ5回目までしか終了していませんが29年度が1,134人という結果になります。

次に、スコアを見てみましょう。図3は、平成27年5月から29年10月までの3年間に國學院大學のランゲージラーニング・センター(LLC)で実施された17回のTOEIC® IPのそれぞれの平均スコア、最高点、最低点のグラフです。それによると、この3年間の平均スコアは423から470の間で推移しています。17回全体での平均は464であり、大学生の国内平均値は約440と言われているので、それよりもやや高いということになります。これら3つのTOEIC®スコア・データの中で最も変動が大きかったのは最高点です。最高点は、27年度第5回目までは810~840の範囲であまり変化がなかったものの、同年度第6回目からは大きく上下しています。IPの最高点は27年度第6回目には870に上昇し、その後29年度第4回目までに3回ほど900以上となっています。一方、最高点が750以下と低い回も同期間に4回ありました。これに比べ、最低点のアップダウンは最高点ほど大きくありません。最高スコア内の最高値と最低値の差は175と大きいのに対し、最低スコア内の差は80です。しかし、自由参加である本学TOEIC® LRは、毎回の参加者の学年や英語力がまちまちであり、同じ学生が受験しているわけではないので、スコア値の上下だけを見て一喜一憂したり、実施回ごとの数値を単純に比較して判断したりすることはできません。例えば、英語力が高い学習者が多く受験すれば平均値は上昇しますし、初めて受験した人が多ければ、低くなります。そこから考えると、最近、値が変動しているということは、いろいろな学力レベルの学生が受験するようになった可能性もあり、学内で英語の検定試験を受けてみようという意識が高まったのなら、英語学習の外的動機付けとしては良かったと思われます。

図3. 國學院大學における平成27年度第1回~29年度第4回までのTOEIC® IP各回の平均スコア、最高点、最低点の比較



TOEIC®学習のアンケート結果から分かる目標スコアと自主的な英語学習

LLCでは、受験者のTOEIC®や英語の自主的な学習状況を知ってより良い教育を提供するため、毎回のTOEIC® IPの際に、6項目ほどのアンケートをおこなっています。その中から「目標とするスコア」と「授業外での1週間の英語の自主学修時間」の二つを取り上げ、12月第5回IPの最新の結果を見てみることにします。図4は、受験者217人の目標スコアを450~900点の50点刻みの選択

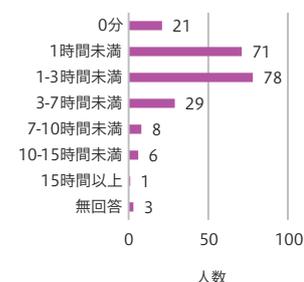
肢から選んで貰ったものです。それによると、700点を目標値と答えた人が38人、750が37人、800点が38人と、この辺りに集中しており、900点を目指す人も20人います。これらを合わせると、参加者の約61%に当たる133人が700～900点という高い範囲に目標スコアを設定していることが分ります。以前、TOEIC®スコアによる単位認定の基準を550と650に設定していた時は、自分の目標値を600台とする人が多かったのですが、昨年より基準が730に引き上げられたため、その影響で目標値も上昇したと推測されます。一方、目標値500以下、450以下という控えめな人もいます。

では、授業外ではどれくらいの時間、自主的に英語を勉強しているのでしょうか。図5は1週間の英語の自習時間のデータです。それによれば、約36%に当たる78人の学生が週に1時間から3時間の自習を行っており、3～7時間勉強している人が29人、7～10時間が8人、10～15時間が6人、そして15時間以上と答えた学生も一人います。しかし、1週間の合計自習時間が1時間に満たない人が71人、全くしていない人も21人居ます。合わせると参加者全体の約43%に相当しますから、少し心配になります。

図4. 目標とするTOEIC®スコア



図5. 自習時間



こうした自習時間の長さ、目標スコア、そして実際のスコアは、どのような関係があるのでしょうか。高いスコアを目指す人たちは、たくさん勉強しているのでしょうか。そこで、目標スコア700点以上の133人が、どのくらい英語の自習をしているのか調べてみました。表2は、TOEIC® IPにおける総合スコア、目標スコア、自習時間のピアソン相関係数です。それによると、総合スコアと目標スコアの間には1%水準で有意な正の相関が認められました ($r = 0.449$)。つまり、TOEIC®の総合スコアが高く(又は低く)なるに連れて目標のスコアも高く(低く)なる傾向が認められるというわけです。すでに英語力がある、又はテストに自信がある人が高い目標をセットしたり、自信のない人が謙虚な値を目標にしたりしたことが考えられます。詳しく見ると総合スコアと自習時間については $r = 0.158$ という結果が出ましたが、その相関はきわめて弱いものです。

最後にもう一つだけ、「英語学習の手段」の結果をお伝えします。学習者が実際にどの様な手段を使って英語を勉強しているのかを見

表2. 29年度第5回TOEIC® IPにおける総合スコア、目標スコア、自習時間の相関 (N=214)

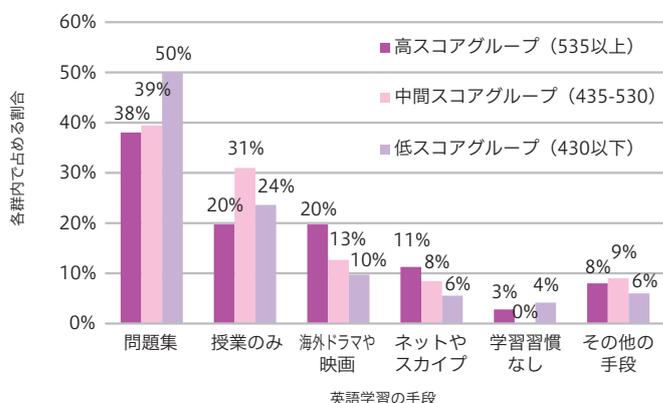
	総合スコア	目標スコア	自習時間
総合スコア	1		
目標スコア	.449**	1	
自習時間	.158*	.154*	1

** 相関係数は1%水準で有意(両側)です。

* 相関係数は5%水準で有意(両側)です。

ため、様々な項目を設定して質問をしたところ、市販の問題集などを利用している人が91人と圧倒的に多く、正課授業のみが53人で2番目に多く、海外ドラマ・洋画やネット・スカイプの利用もその次に多いことがわかりました。今回は、受験者全体をスコアの順に3つのグループ、高スコア群71人(スコア535以上)、中間スコア群70人(435-530)、低スコア群73人(430以下)に分け、その中でどの様な英語学習をしているのかを調べました。図6によると、市販の問題集などを利用している人はどのグループでも大きな割合を占めていますが、特に低スコア群に多く、海外ドラマや映画、ネットやスカイプなどを利用している割合は、高スコアグループ内が高いということが見られます。英語学習は授業のみという割合は中間スコアグループが多いようです。いろいろな方法を使って学習することは、外国語を修得する上で効果的といわれていますが、問題集や参考書ばかりでなく、ぜひ試してもらいたいと思います。

図6. 高スコア群、中間スコア群、低スコア群における英語学習手段の割合



TOEIC®を利用しよう

ここまでTOEIC®について見てきましたが、TOEIC®をはじめとする語学力検定試験は、あくまでも自分の語学力を「測定」するためのツールです。つまり、通常の学習をしっかりとこなし、時々その「力試し」として検定試験を受験する、というのが本来の姿であり、検定試験のためにだけ勉強するというのは本末転倒です。しかし、どのテストも「テスト」であるからには、それぞれ異なる出題傾向や特性を持ち、テスト・スキルの獲得がスコアに影響を与えることも否めません。TOEIC® LRは、2技能型で、費用も安いことから圧倒的に受験者が多く、採用スクリーニングに便利に利用する企業が多いことから、当分はこのままの状態が続くと思われます。しかし、試験目的だけの学習をしたのでは、高いスコアが取れたとしても、実際の英語コミュニケーションが出来ないという困った事態も想定されますから、バランスのよい学習をする事が望ましいのです。実社会では、スピーキングやライティングという能動的語学スキルの必要性に着目し始めた企業も多く、大学入試においても、これらのスキルを含む英語の4技能型試験を取り入れる大学が増えています。TOEIC® SW (スピーキング、ライティング) テストのスコアを歓迎する動向も見られます。これらの検定テストをうまく利用すれば、自分の英語力のチェックにもなりますし、何よりも、英語を聞く、読む、に加えて、話す、書く、が出来れば、外国人と英語でコミュニケーションを取ることが出来て世界が広がるでしょう。

大学授業最前線

— 教員の努力！ 学生のまなざし！（17） —



神道教化系の授業における授業改善の取り組みについて

國學院大學の各学部では、学生を主体的・能動的な学びに導くアクティブラーニング型の授業が展開されています。今回は神道文化学部において長く授業改善に取り組んでこられた藤本頼生准教授の事例を紹介します。先生のお話からは、授業方法の改善が、学生の学修開発に結び付くものであるとともに、教員としての新たな能力開発にもつながってゆくものである事がわかるでしょう！



教員の授業努力

藤本 頼生
(神道文化学部准教授)

本学の専任教員になって2年目の頃であったと思う。神社ネットワーク論Ⅰ・Ⅱという神道教化に関する学科目の授業を担当する同僚の黒崎浩行教授から「授業改善の取り組みを一緒にやりませんか」と誘われたことが筆

者自身、FDに本格的に取り組むことになったきっかけである。以後、神道文化学部として取り組んできた神道文化基礎演習のグループワーク導入（学部における共通科目の授業改善の取り組みとして本紙Vol.13に掲載）なども相俟って、細々としたものではあるが黒崎教授とともに授業改善の取り組みを地道に続けてきた。それゆえ、最前線と称するほどの際立った取り組みは、正直なところ何一つないのだが、聊かの報告をしてみたい。

まず、先に述べた「きっかけ」以外に筆者が授業改善に取り組むようになった経緯を少し述べておきたい。筆者の担当授業のうち演習系以外の学部講義科目は、平成23年度の着任当初は神道教化概論Ⅰ・Ⅱで、他には教

養総合科目の「神道と文化」や別科の授業を担当していたが、専任・兼任教員の担当科目の都合もあって、平成26年度からは神社管理研究Ⅰ・Ⅱ、同27年度からは宗教行政研究Ⅰ・Ⅱという神社実務に関わる学科目をも担当することとなった。

これらの科目は、いずれも神職資格（必修・選択必修）取得に関する科目で、かつどれも3年次からの開講科目である。これは学生の側からすれば、3年次の一年間で、筆者が担当する講義系の授業を3科目受講するというケースもあり得るわけで、かつ3年次の必修科目である神道学演習Ⅰを筆者の担当で選択した学生からすれば、一週間のうち4科目を同一教員にて受講することになる。そのため、授業内容が異なっても講義する教員は同じという状況が丸一年続くわけで、余程の物好きでない限り、学生には筆者の講義が似たような形で聞こえてしまうことになる。ゆえに学生から辟易とされぬよう、教授内容、講義形式の転換を含む授業改善を行っていくということは、筆者にとってはある種必然、必須な取り組みともなってしまったのである。

筆者の担当する授業のうち、神道教化概論Ⅰ・Ⅱについては、4年前より単なる講義形式の授業から、独自のワークシートを作成して、グループワークを用いた学生主体の思考中心型の授業を開始した。本年度には前期の

Ⅰ、後期のⅡともに全て独自のワークシートを用い、かつ主に「シンク・ペア・シェア」形式をはじめとしたアクティブラーニング型の授業に移行を終える。無論、知識教授も重要であるため、講義も行っているわけであるが、現状では反転授業を導入するほどのレベルには達していない。とはいえども講義とグループワークと2:1、もしくは半々の割合であり、グループワーク以外にも、神道教化思想にかかる講義を経てのミニ神道思想の作成、社報や由緒版の作成ワーク、社頭講話の基礎練習ワークなど、種々のアクティブラーニングの手法を「神道教化概論」という学科目に合うように、カスタマイズした形で作り替えながら導入してきた。

こうした授業形式を取り入れた事由の一つは、本年4月に世界思想社より刊行した宗教学のアクティブラーニング専用の教科書『基礎ゼミ 宗教学』（大谷栄一編）に執筆者の一人として加わったことである。同書の執筆に際しては、他大学の宗教学の先生方を中心とした授業改善の議論にも参加したことと、同書に記されている種々のアクティブラーニングの基礎にワークシートの利用があったことが大きく、同じ科目をもつ皇學館大学の板井正育准教授ら授業改善に対する他大学の先生方の意識や考え方、授業改善のための技法にも影響を受けた。考えてみれば、かつて講義中心で神道教化概論Ⅰ・Ⅱの授業



を行っていた時代は、非常勤講師の時代も含め、学生に
いかに静かに教員の話の聴講させるか、そのために学生
の気をいかに引くかということに重きを置いた授業形態
であったが、現在は神道教化概論Ⅰ・Ⅱの授業について
は、むしろ積極的に学生に作業をさせたり、学生同士の
議論をさせたり、教員とともに学生同士の意見の交換を
行うような形式に変更し、筆者は授業中、始終教室内を
ぐるぐる巡回し、ワークシートへの記載内容をめぐって
学生との対話を行っている。このことで、授業中に学生
にメリハリが付き、スマホなどを触る学生への対処（注
意等）もできる他、途中に行う講義では、むしろ学生が
静かに黒板に向かい教員の話の聞くようになったという
実感を得るようになった。この変化により、筆者は講義
も大事ではあるのは勿論だが、学生の潜在能力を引き出
すためのファシリテーターとしての役割、技能もより必
要となってきたと感じるようになった。

一方、現代における神社の神道教化活動を学ぶことを
テーマとする神道学演習Ⅰ・Ⅱでも、数年前から演習発
表以外の機会にて、種々のアクティブラーニングの技法
を試しており、『グループ体験学習ワーク』（鯖戸善弘著）
等を参考にしながら、論文作成のためワークや、リーダ
ーシップやチーム力を高めるためのグループワーク、他者
の意見や肯定的な聞き方を学ぶワークなどを通年で実施
している。このことにより、グループ分けのためのアイ
スブレイクおよびグループワークの技法や、授業におけ
るワークのバリエーションが増え、演習そのものに好影
響が出ている。ゆえに筆者としては、今後も種々のワー
クを試しながら、学生の主体性や能動性を引き出す取り
組みを進めてみたいと考えている。

しかしながら、課題も多い。こうしたワークを通じて
の問題は、授業時における講義内容およびワークのリフ
レクションと事前・事後学習の実施である。神道文化学
部の学生は授業に関しては受け身な学生が多く、事前・
事後の学習を怠りがちであるとともに、時間的な問題か
らリフレクションの時間をうまく設けられていない点
や、受講人数の関係でコメント付でのワークシートの返
還が困難であるという点である。また、ワーク時にやる
気のない学生も時折見られるため、その学生をいかに
ワークへと誘導、参加させるかといった点は今後の課題
であるといえる。さらに、今後は授業評価アンケートの



分析、検証も行っていかなければならないと考えている。

神道文化学部の授業科目は、神職資格取得に関わる授
業が多いこともあって、将来高等神職たるべき思考や分
析能力を養うことも大事ではあるが、とくに資格取得に伴
う必修科目では、どうしても神社本庁が資格取得にあつ
ての基準として求める一定レベルの知識内容の教授とそ
のためのカリキュラム設計が求められる。その点で種々の
ワークの導入は、本来講義中心のはずの科目では、痛し
痒しではあるのだが、講義とアクティブラーニングとのバ
ランスを図りつつ、今後も授業の改善に努めていきたい。

学生のまなざし

高松慎至さん（神道文化学部 3年）

私は藤本頼生先生のワーク形式の授業を通して感じて
いることは、ワークに取り組むことによって、まずは私
自身でじっくり考えて取り組むことができると感じてい
ます。先生の授業内では主に神道教化や現代の神社や神
道の取り組み・課題について考えることが多く、私自身
がこれまで神道について学んできたことを基に私なりの
意見、考えをしっかり持つということは大切だというこ
とを実感しています。ワークでは授業内で他の人と意見
や考えをシェアして共有する時間や他の受講生と一緒に
取り組むものもあり、私の意見や考えを他の受講生に述
べるだけではなく、他の受講生の意見や考えを聞くこと
によって、私が考えなかった視点や観点から神道教化や
現代の神社や神道について考えることができるので、
ワークで他の受講生と考えをシェアして共有することは
とてもいい機会でいいと感じています。ワークを通して
考えたことは他の授業や神社でのご奉仕にも役立つこ
とが多く、今後も積極的に取り組んでいきたいです。

名著探訪

— 高等教育、この1冊 — (第9回)

本機構の教員が、自身の日々の教育活動や高等教育研究を進める上で役に立ったもの、これは読んでおいた方がいいと思うものなど、その琴線に触れた1冊を紹介するコーナーです。

● 英語教育について「知っているような錯覚をいだきながら、実は何も知らない」まま、英語教育の抜本的改革が論じられている状態は、この四十年間続いている(本書46頁)



鳥飼玖美子「英語教育論争から考える」
(みすず書房、2014年)

2020年度より実施される大学入試共通テストにおいて、英語は「高等学校学習指導要領における英語教育の抜本改革を踏まえ、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能を適切に評価するため、共通テストの枠組みにおいて、現に民間事業者等により広く実施され、一定の評価が定着している資格・検定試験を活用する」¹ことが決まった²。高校では英語の4技能を学習しているのに、大学入試がそれに対応していないという問題を解消すると言われれば、目的としてはそれらしく聞こえる。この入試改革が、現在進行中の英語教育改革の一つであることは言を俟たない。

本書は、1974年に平泉渉参議院議員(当時)が示した英語教育改革案(平泉試案)を契機として渡部昇一上智大学教授(当時)との間に起こった論争(英語教育大論争)の検証から始まり、英語教育改革なる「世にも不思議」(3頁)なものをめぐりつつ、英語教育を論じたものである。論述の対象となる場は高等教育機関に限定されているわけではないが、国による「グローバル人材育成」のかけ声の下で、学生の英語力向上に取り組んでいるのはどの段階の教育機関も同じであろう。その中で、改めて英語教育の目的や意義、あるいは成果を上げる教授法というものについて考えさせてくれるのが本書である。そして、英語教育の専門家ではないが、英語教育について言いたいことがある、という御仁にこそ、読んでいただきたい。門外漢が何か言おうとするならば、平泉試案並のものを準備しなければならないことがわかるからである。

平泉試案は、当時の英語教育界では歓迎されなかった上に正しく理解されなかったようであるが(27～32頁)、鳥飼氏は現状に照らし合わせて再考した上で「二〇一四年の英語改革論議に提案しても、十分に議論のたたき台となり得る提案が多い。外国語教育の心髄に触れている問題提起もあり、傾聴に値する」(87頁)と評価している。

「世にも不思議」な英語教育改革については、「この国は、明治以来、英語教育について延々と議論し改革なるものを繰り返して今に至っており、旧かなづかいさえ改めれば今日でも通用するようなことを明治、大正、昭和と論じ続けている」(3頁)とあるのに尽きる。そしてこの嘆かわしい状況は、たぶんまだ続くであろう。鳥飼氏は、これまでの英語教育改革の検証がなされていないことを再三指摘しているが、最近流行りのPDCAサイクルを導入した方がよいのではなからうか³。

【併せて読みたい、この資料】

英語教育の在り方に関する有識者会議(第1～9回)議事録(平成26年2月～9月)

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/102/index.htm

英語力の評価及び入試における外部試験活用に関する小委員会(第1、2回)議事録(平成26年6月～9月)

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/102/102_2/index.htm

英語教育の在り方に関する有識者会議は初等中等教育局が管轄しており、当初予定されていた検討事項に大学入試に関する事は含まれていなかったにも関わらず、結果として大学英語入試の4技能試験導入、資格・検定試験の活用促進を提言した流れがわかる資料⁴。何と強引な推進力ではないか。

¹ 大学入学共通テスト実施方針

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afilefile/2017/10/24/1397731_001.pdf

² 2024年度までは共通テスト英語試験は継続実施。

³ 114～115頁では、文科省の調査分析について問題点を述べている。

⁴ 120頁注(4)、120～121頁注(10)に引く専門家の指摘も、教育政策の進め方に疑問を抱かせるに足る。

(佐川)

教育開発推進機構彙報

(平成29年7月1日～12月31日)

※肩書きは等は当時のもの

行事

○催事

- 8月7日～11日：教員免許状更新講習（中・高）
- 9月6日：教育開発推進機構教職員SD研修会
- 10月7日：教育開発推進機構講演会「グローバル市民になるために：大学の外国語教育における自律性の育成」(講師：鳥飼玖美子氏 立教大学名誉教授)
- 11月11日：國學院大學人間開発学会第9回大会公開シンポジウム「最新のスポーツ科学をどうやって教育現場で活用するか？」共催（主催：人間開発学会 人間開発学部）
- 12月2日：院友若手教員・教員採用試験合格者交流会
- 12月13日：平成29年度FD講演会「合理的配慮とは何か―大学における障害学生支援の現在」(講師：村田淳氏 京都大学学生総合支援センター准教授 障害学生支援ルームチーフコーディネーター)

○学生オリエンテーション・講習会・試験実施等

- 7月3・4・6・11・15日：アカデミックスキル講座
- 7月5日：第3回教員就職ガイダンス（3年生）
- 7月3・5・6日：LLC TOEIC®講座（渋谷・たま）
- 7月12・13日：LLC TOEIC®ハーフ模試（渋谷・たま）
- 7月12・15日：教員免許状一括申請登録会（1次）
- 7月18・19・20日：新潟コメ作りワークショップ稲刈り説明会
- 7月26日～8月16日：教員採用試験二次対策指導会
- 8月3日：新潟コメ作りワークショップ稲刈り説明会
- 8月25日～9月15日：夏期集中講習会
- 9月20日：新潟コメ作りワークショップ（稲刈り）事前勉強会
- 9月23・24・30日・10月1日：新潟コメ作りワークショップ（稲刈り）
- 9月27日：第4回教員就職ガイダンス（3年生）
- 9月～12月：教員就職支援 専門教科ゼミナール
- 10月4日：教職履修カルテ説明会
- 10月～11月：教員就職支援 後期教育小論文講習会
- 10月11日：教員求人登録説明会
- 10月18・25日：國學院栃木教育実習事前ガイダンス
- 11月2日：第5回教員就職ガイダンス（3年生）

- 11月2日：第1回学内教員採用模試 於たまプラーザキャンパス
- 11月11日：新潟コメ作りワークショップ奉納（新潟白山神社）
- 11月14日：高校授業見学演習 於都立小山台高等学校（教員採用試験合格者）
- 11月15日：HSK 4級、5級半コマ講習会
- 11月13・20・27日・12月4・11日：LLC TOEIC®講座（たま）
- 11月15・22・29日・12月6・13日：LLC TOEIC®講座（渋谷）
- 11月15・17・22・29日・12月6・8・13・15日：LLC シンプル英会話
- 11月16日：教員採用試験合格者報告・相談会
- 11月16・23・30日・12月7・14・21日：LLC NA2やり直し英文法（たま）
- 11月17・24日・12月8・15日：LLC アカデミック・イングリッシュ講座
- 11月20～12月22日：首都圏教育委員会教員採用試験学内説明会（9自治体）
- 11月27・29日・12月5・7・8・9・11日：アカデミックスキル講座
- 11月29日：中検3級、4級半コマ講習会
- 12月6・9日：教員免許状一括申請登録会（2次）(4年生)
- 12月9日：教員就職支援 志望県別学習相談会（3年生）
- 12月18・20日：LLC TOEIC®ハーフ模試（渋谷・たま）
- 12月23・24・26日：教職教養冬期集中講習会（3年生）

学生スタッフ研修会・打ち合わせ会等

- 8月1日：前期ノートテイカー報告会
- 8月9日：前期SA最終報告会
- 9月14日：後期ノートテイカー顔合わせおよび研修会

FD活動、教育支援

- 12月16日：平成29年度第4回新任教員研修・第2回FDワークショップ

出張等

- 7月1・2日：日本言語科学学会 於京都女子大学（発表：松岡）
- 7月26日：文京学院大学FD講演会（講師：鈴木崇）

7月28日：TOEIC®セミナー、大学の教育改革×TOEIC® Program」於ベルサール半蔵門（松岡）

8月3日：高等教育に関する基礎データ等の調査研究グループ（第2回）於国立大学協会（委員：戸村）

8月25日：都内私立大学教職課程事務担当者懇談会第3回幹事会 於國學院大學渋谷キャンパス（小林・高橋）

9月1日：東北大学 大学中国語教授法強化講座事前ワークショップ 於TKP東京駅八重洲カンファレンスセンター（佐川）

9月2～9日：東北大学 大学中国語教授法強化講座 於北京語言大学（佐川）

9月8日：平成29年度慶應義塾管理職研修会「歴史から見た日本の高等教育と慶應義塾（基調講演）」於慶應義塾大学（講師：戸村）

9月21日：北海道短期大学部FD講演会（講師：中山）

9月30日：大学のグローバル化情報交換セミナー15 於アルク市ヶ谷本社（松岡）

10月3日：高等教育に関する基礎データ等の調査研究グループ（第3回）於国立大学協会（委員：戸村）

10月14日：JACET学習者要因開発 於東洋大学（松岡）

10月25日：都内私立大学教職課程事務担当者懇談会総会 於國學院大學渋谷キャンパス（小林・高橋）

10月30日：授業評価アンケートに関する検討会 於立教大学 大学教育開発・支援センター（講師：戸村）

11月7日：関東圏FD連絡会 於東洋大学白山キャンパス（新井・小濱・原田・中條）

11月15日：高等教育に関する基礎データ等の調査研究グループ（検討事項に係る打合せ）於国立大学協会（委員：戸村）

11月19日：日本言語教師学会2017 於つくば会議場（発表：松岡）

11月24日：徳島県教育委員会訪問（坂入）

11月25・26日：全国私立大学教職課程研究連絡協議会 於四国学院大学（坂入）

12月2～3日：大学教育学会2017年度課題研究集会 於関西国際大学（戸村）

12月4日：渋谷区バリアフリー推進協議会・第3回区民部会 於リフレッシュ氷川（鈴木崇）

12月5日：高等教育に関する基礎データ等の調査研究グループ（第4回）於国立大学協会（委員：戸村）

12月17日：ティーチングポートフォリオ作成研修会 於東京大学（松岡）

12月17日：関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会 於法政大学梶野町校舎（小林）

12月18日：都内私立大学教職課程事務担当者懇談会新旧幹事校引継ぎ会 於共立女子大学（小林・高橋）

情報発信

- ・高等教育TOPICS配信（毎週月・木）
- ・教育開発推進機構ウェブサイトよりセミナー等情報発信（随時）

刊行物

7月：『教育開発ニュース』Vol.16

9月：平成29（2017）年度前期学生による授業評価アンケートリーフレット（教育開発センター）

9月：『平成29年度教職総合ハンドブック』

そっ たく どう じ
啖 嚼 同 時

— 編集後記 —

教育開発ニュース17号をお届けします。今回は本学の教職支援体制や学生によるボランティア活動、学生のTOEIC®受験結果の分析結果等を紹介しました。9年前、教育開発推進機構はFD、共通教育、学修支援をその任務として設立されましたが、本号でも取り上げたように、現在では当初想定されていなかった業務も担うようになっています。これは、現代の大学教育に求められているものの多様化を示すものでもあります。これからも大学教育の変化の動向を注視しつつ、本学学生や教員に寄り添う機構でありたいと願うものです。（中山）

教育開発推進機構NEWSLETTER『教育開発ニュース！』第17号 平成30年2月28日発行
 発行人 柴崎 和夫 編集人 佐川 繭子・中山 郁
 発行所 國學院大學教育開発推進機構 〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28